

羅 針 盤			関係する分掌	方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート	改善策	自己評価	外部アンケート	改善策
I 生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていきますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開を年間15回以上実施している。 ・学校からのたより等で情報発信を行い、保護者の90%以上から満足を得ている。 	教務	<ul style="list-style-type: none"> ・学校参観日・授業参観日・学校公開日・こよう祭等を設定し、授業の様子や学習の成果を紹介する。 ・学年通信等を使って学校の様子を紹介する。 ・保護者会、学級懇談会、PTA総会、学校評議員会等の機会に意見を聞く、アンケートをとるなどして、改善に生かす。 						
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、保護者、進路先、関係機関で支援を共有する機会を年1回以上設けて、実施している。 ・地域住民や地域の学校間交流を年4回以上実施している。 	進路		<ul style="list-style-type: none"> ・「支援連絡票」を作成し、在学中に本人保護者に支援機関に登録してもらう。支援を引き継ぐために、支援機関の方に現場実習先に同行してもらう。必要に応じて個別のケース会議を行う。 ・地域交流活動(全学年)や学校間(大泉、市立太田)での授業交流を推進する。 					
II 地域の特別支援に関するセンタースタッフ的な役割を果たしていますか。	3 障害のある児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中・高・特別支援学校の教員、保護者及び児童生徒を対象とした相談・支援等を実施している。随時相談・出張相談・電話相談・メール相談等を1月までに100件以上実施する。 ・学校参観日・相談日を中心に本校への来校者を積極的に受け入れ、1月までに参加者200名以上を目指す。 	コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中・高・特別支援学校への情報発信、情報収集を積極的に行い、地域のニーズに対応した相談・支援を充実させる。 ・各高校のニーズに沿ったアドバイスができるように、学校風土なども理解しながら柔軟な姿勢で相談に当たり、実践可能な支援方法をアドバイスするよう努力する。 ・地域の小・中・特別支援学校に対して、開催日を通知する他、複数回参加可能なことを伝えたり、開催日以外にも対応できる柔軟な受け入れ態勢であるということも伝える。 ・学習支援会議を通して、生徒の指導に関して様々な観点から評価し、指導のあり方・支援の方法等を全職員で確認する。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習状況等について職員間で確認する機会を年間6回以上実施している。 ・運営委員会や学年会において生徒の情報交換を毎回実施している。 ・「個別の教育支援計画」について、保護者の80%以上から理解を得ている。 ・「個別の教育支援計画」にもどづいた指導の結果について、保護者の85%以上が満足している。 ・生活習慣の定着を図るために、家庭と学校が連携して「あたりまえだけこの10カ条」の2項目以上に取り組んでいる。 ・本校のいじめ防止や不登校対策に生徒・保護者の80%以上が満足している。 ・生徒には年間3回、保護者には1年間を通じて、いつでも相談できる教育相談の機会を設けている。 	教務		<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会や学年会において、生徒の様子について情報交換をする機会を毎回設定する。 ・「個別の教育支援計画」の作成スケジュールに沿って、保護者アンケートや個別面談・家庭訪問等を実施し、保護者や生徒のニーズをもとに作成する。また、目標・支援方法等については、保護者と十分に話し合う。 ・「個別の教育支援計画」の作成スケジュールに沿って、個別面談を実施し、指導の成果について丁寧な説明を行い、新たな目標・支援方法について保護者と十分に話し合い、教員が活用し情報共有しやすい形式にする。 ・「あたりまえだけこの10カ条」を活用し、学年通信やチェックシートなどを活用し、家庭と連携しながら、生活習慣の定着をはかる。 					
III 生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の定着を図るために、家庭と学校が連携して「あたりまえだけこの10カ条」の2項目以上に取り組んでいる。 ・本校のいじめ防止や不登校対策に生徒・保護者の80%以上が満足している。 ・生徒には年間3回、保護者には1年間を通じて、いつでも相談できる教育相談の機会を設けている。 	生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針について周知し、病休以外で3日以上欠席の続く生徒がいた場合は担任、学年、教育相談係が連携して対応する。 ・生徒には定期的な教育相談の他に「悩み相談用紙」を配付し、いじめ等の早期発見、早期対応に努めていく。保護者へは年度当初、教育相談の案内を配付し、年間を通じて教育相談を実施する。 ・研修係が中心となって、研究授業・授業研究会・研修会等を計画・実施する。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のための研究授業・授業研究会・研修会等を各5回以上実施している。 	学習		<ul style="list-style-type: none"> ・普通救命講習(AEDの扱いを含む)や不審者対応の職員研修を関係機関と連携・協力して行う。 ・危険箇所や危険状況が確認された時、初期対応を直ちに行う。 					
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の80%以上から理解を得ている。 ・疾病疑いのある生徒に、結果受後2日以内にその結果を通知している。 ・保護者及び担任に、受診率と個別の受診状況を年3回報告し、保護者面談等で受診を勧めている。 	保健	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察及び衛生検査を実施して、生徒の健康状態の把握と管理、生活習慣の確立に努める。 ・毎月保健便りを発行して情報を提供する。 ・保健関係事務の効率化に努める。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルをもとに、緊急時の対応策(避難訓練)を年間3回以上実施している。 ・危機管理に関する職員研修を年間3回以上実施している。 	保健		<ul style="list-style-type: none"> ・普通救命講習(AEDの扱いを含む)や不審者対応の職員研修を関係機関と連携・協力して行う。 ・危険箇所や危険状況が確認された時、初期対応を直ちに行う。 					
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会や生徒が体験的活動ができる機会を、年5回以上企画している。 ・テキストや進路ノートを活用して、系統立てた指導を行っている。 	進路	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年やPTA係と相談し、学年に応じた研修が実施できるように企画する。 ・進路のテキストや学校独自の進路ノートを活用し、年間を通して必要な内容を学習していく。 ・ハローワーク、労働政策課、障害者就業・生活支援センター(わーくさぼーと)と共催で企業向けの学校見学会を計画する。 ・支援協議会に進路指導主事が出席し、地域の福祉サービス事業所等と情報交換ができるようにする。 ・福祉課や障害福祉サービス事業所、わーくさぼーと等の協力を得てネットワーク相談会を計画し、保護者の参加を呼びかける。 ・各学年ごとに進路指導の方針及び具体策を明確にし、学校全体として一貫した進路指導を実施する。 ・学年保護者会や進路便り、学年通信等で進路に係わる情報を提供する。 ・個別面談で進路について保護者と話し合う際には、全職員共通理解の元で同じような情報提供や対応ができるようにする。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ・企業への就労を目指し、関係機関と協力しての学校見学会を年2回以上実施している。 ・福祉サービス利用に向けて、年間を通して太田市の支援協議会へ参加し、年1回ネットワーク相談会を開催している。 ・進路指導について、保護者の90%以上から満足を得ている。 	進路							